

発展してやまぬ伝統の力

学園創立47周年を迎える



学報
新
花

國學院大學
栃木短期大学
栃木市平井町608
〒328-8588
TEL0282-22-5511
FAX0282-22-5743
編集 学報編集部

第156号

大きならんぷ 取出て
よろこべり。古き知識の
如く しづけき
「優をく」 釋 迢空

韓国・漢陽女子大學と 協定調印



▶ 調印式に臨む中村幸弘学長(左)と
柳吉東学長(右)

日韓両国の文化交流を推進

本学は、平成19年11月27日、韓国・漢陽女子大學と教育・学術の交流を促進する目的で、両大学間の協定を締結した。海外の大学と交流の協定を行ったのは、開学以来初めてのことである。

調印式は、当日、午後3時30分から、漢陽女子大學学長室で行われた。本学側からは、木村好成理事長・中村幸弘学長・石坂昌嗣学長補佐が、漢陽女子大學側としては、柳吉東学長・鄭右錫企画室長・金容安日語通訳科長ほか、日語通訳科教授が出席、中村学長と柳学長とが、それぞれ調印し、協定書を交換した。

両大学の関係は、本年度7月11日、日本研修に来日していた同大学日語通訳科生が、当時日語通訳科長の職にあつた現学長と李炳萬専任講師とに引率されて、日光参拝の途次、本学に立ち寄ったことに始まる。もちろん、中村学長の教え子である李講師の強力な推薦による日光参拝であり、本学訪問であつた。

さらに、実は、それに先立つ6月17日、韓国日語日文学会の招請講演（6月16日・郡山大學）を終えた中村学長が非公式に訪問、両大学の関係資料を交換、その後、両大学とも検討を重ねてきていた。

漢陽女子大學は、韓国ソウル特別市にあり、25学科からなる総合短期大学で、隣接する漢陽大學との系列大学である。多様な、どの学科に在籍しても、礼儀作法を学ぶ科目が必修であるとのことである。

早くも、調印後の話し合いや、学内見学のなかで、具体的な交流の計画が確認された。明年度7月には、日本研修の研修先の一つとして、日語通訳科学生40名ほどを迎えることになった。したがって、当然、本学からの訪韓を期待してくれている。さらに、明年度には、本学に入学したうえで、國學院大學への編入学を希望したい、との要請も受けた。本学の国際化が一気に進んだ、という印象の協定であつた。

学園創立47周年記念式典を挙行

学園創立47周年記念式典が10月6日、

学園40周年記念館を式場として、来賓、法人役員、教職員、学生・生徒が列席し厳粛に執り行われた。

はじめに太平山神社小林一成宮司を斎主として奉告祭が斎行された。修祓・斎主一拝・献饌、斎主の祝詞奏上とつづき、日光東照宮伶人の奏楽にあわせて中学・高校・部活動の生徒による神前神楽「浦安の舞」が奉納され、学園代表者が玉串を奉り、拝礼した。

つづく記念式は、木村好成理事長が式辞を述べたあと、永年勤続者（短大関係4名）が表彰された。

◆ ◆ ◆

永年勤続者表彰・短大関係

30年勤続

小川 裕二教授

20年勤続

奈良 明美助手

10年勤続

杉田 洋子教授

安藤 博光非常勤講師

本学園は昭和三十五年四月、栃本市並びに栃木県神社界の方々の要請を受けて、國學院大學附属高等学校として開設されました。以来四十年に幼稚園、四十一年に短期大学、平成八年に中学校を開設して今日に至っています。

創立記念日を祝うということとは、学園の創立の時に立ち返って、改めて建学の精神を想い、初心に返って決意を新たにするとともに意義がありまします。本学園の母体である國學院大學は、皇典講究所の創設を以って学校の歴史の始まりとし、明治十五年十一月四日、有栖川宮職仁親王より賜ったその「告諭」に謳われた精神を建学の精神としています。

私たち日本人が学問をするためには、まず学問をする基本の心を知ることが大切です。基本の心とは、「国体の講明」、即ち、国の成り立ちを知り、さらに国の在り方を道を知ったうえで学問こそが、国の基礎を固める力となる

「もとつころ」あらたに

理事長 木村好成 (式辞要旨)

り、また国を正しい方向に導く力となります。併せて「徳性の涵養」、即ち、国民の一人一人が古来から伝わる日本民族の良識を正しく養い育て、各自の人生を全うすることが大切であり、このことは、百世紀の末までも変わるこのない、人間の踏み行うべき大道です。

現時、世界の情勢は、イラク・北朝鮮の問題が未解決の上に新たな国際問題も生じています。本学園はこの「告諭」の精神を貫くことで、道徳を尊ぶ真の日本人を育成しなければならぬと思っています。悠久の歴史の流れに育まれた大和心を受け継いで存在する日本、そこに生きる日本人の考え方が人類社会の発展と世界の人々に真の幸福をもたらします。

国際社会での日本および日本人の役割と國學院の設立の意義と使命を、今日の機会に十分に認識して、各自が日頃の学業に一層精励し、将来有為の日本人となるように切望いたします。

石山育朗 教授(教養科目・体育：運動生理学)

日本咀嚼学会平成18年度優秀学会賞受賞

平成19年8月25日、大阪・千里ライフセンターで開催された「第18回日本咀嚼学会学術大会」において、本学教養科目所属の石山育朗教授が「平成18年度優秀学会賞」を受賞した。本賞は、該当論文がない場合もある。受賞論文は「心拍変動、唾液成分および脳波による咀嚼時交感・副交感神経系活動の評価」で、チューインガムを用いた咀嚼中の自律神経系活動を、心拍間隔の変動周波数解析と唾液中の消化酵素(アミラーゼ)、免疫グロブリンA、ストレスゾールなどの成分、さらに脳波(α波、β波)の変化から調べたものであった。



先生は、咀嚼中、脳血流量が有意に増加し脳を刺激することを既に当学会をはじめ日本体育学会、運動生理学会で研究発表や講演をされている。「日常の十分な咀嚼行動が認知症を予防するかどうかは更なるエビデンスが必要ですが、堅焼き煎餅位の程好い硬さの食品をよく(回数を多く)噛むことは脳を刺激し、チヨツとした眠気の防止や、唾液分泌を促すことで口の中の洗浄にも効果的です」という。また「噛んでいる時は緊張状態が顕著になっていますが、その影でリラククス感を引き起こす副交感神経系も刺激されているので、噛み終えると緊張がほぐれ易くなりま

す」とも指摘する。先生は、講義で「試験の20〜30分前から直前まで、やや硬いものを噛んで脳を刺激しておく」など、研究成果を学生に還元する試みもされている。

平成19年度1年生
秋季研修旅行が10月
17・18日の両日実施
された。各学科の

古きを訪ね新しきを知る 見識を深めた1年生秋季研修旅行

研修地は昨年度と同じ
であるが、今年度初等
教育学科では新しい試
みが行われた。

初日の会津若松鶴ヶ城の見学後、12班に分かれて12時から17時まで会津若松市内で班別研修を行った。自分たちのプランで、ある班はタクシーを、またある班は市内循環バス「ハイカラさん」を利用して市内を自由に散策したり、「和菓子作り」や「ガラス絵彫り」・「おきあがりこぼうしの絵付け」の体験など、今までの秋季研修旅行とは一味違ったものとなった。

旧開智学校
松本城
真田邸
真田宝物館
文武学校
横田邸

【信州・松本方面】

日本史学科

毛越寺本堂



鹿踊りの歓迎を受ける

【平泉・花巻方面】

国文学科



国宝 松本城

鶴ヶ城
市内班別研修
五色沼散策
郡山市立美術館

【会津若松方面】

初等教育学科

毛越寺
中尊寺
高村山荘
宮澤賢治
記念館
童話村
花巻市博物館

ホテルでの
表現活動



郡山市立美術館
クラリオン
東北製造工場
野口英世記念館
会津武家屋敷
飯盛山
鶴ヶ城
大内宿

【会津若松方面】

商学科

鶴ヶ城
学生たち



家政学科
【会津若松方面】

大内宿
福島県立博物館
御薬園
日新館
五色沼散策
野口英世記念館
ガラス工芸館



会津武家屋敷



福島県立博物館にて

大内宿の古民家



楓 ～色褪せない伝統と心～

第41回 斯花祭



▲ ポスターデザイン賞
美術工芸部(小平莉代さん・猪瀬勝子さん・石原正裕さん)

▲ 左からジャンファンカ 山下都志さん、たいがー：リー(平井博)さん、ジャンファンカ 永島智広さん、進行役の本学商学科1年作井智治さん

斯花祭参加団体と斯花グランプリ

展示部門 (13)

金賞	写真部	写真展示・立体写真・ポートレート
銀賞	書道部	斯花書道展
	ビーナツハウス	身体測定・AED体験・お母さん体験
	家政学科有志	和服・洋服・手芸作品展示
	華道部	華道展(草月流)
	近世史研究会	「大名の参勤交代」について
	児童教育研究会	お化け屋敷
	初等教育学科1・2年有志	エプロンシアター・作品展示他
	東洋史研究会	「足利学校と孔子廟の歩み」について
	美術工芸部	作品展示・七宝焼体験・七宝焼販売
	漫画アニメーション部	イラスト展示・冊子販売
	推理小説(ミステリ)研究会	作品展示・部誌販売
	民俗学研究会	「藤原秀郷公にまつわる伝承」について

公演部門 (11)

金賞	ダンス部	ダンスショー
銀賞	マジック研究会	マジックショー・トリックアート美術館
	演劇部	公演「要求は金のエンゼルと…」
	ことのは会	絵本・詩集の朗読
	コーラス部	「風の詩集・そ人がうたうときなど」他
	茶道部	お茶会
	室内楽研究会	金管・木管・打楽器アンサンブル他
	初等教育学科1・2年有志	クリスマスソングメドレー
	箏曲部	箏の演奏会
	人形劇部	公演「きんのがちょう」
	フォークソング部	ライブ演奏

模擬店部門 (19)

金賞	みるく倶楽部	スパゲッティー・オムライス・ケーキ
銀賞	ハンドボール部	うどん
	弓道部	とん汁
	考古学研究会	焼きカレーうどん
	紅茶とハーブティーの会	紅茶・お菓子
	映画研究会・心理研究会	
	古代史研究会	いも煮汁
	斯花わーくす	クッキー・アクセサリー
	卓球部	チョコバナナ
	中世史・近代史研究会	おにぎり
	テニス部	すいとん
	博物館研究会・物と伝承の会	焼きそば
	バスケットボール部	おでん
	バドミントン部	ホットケーキ
	バレーボール部	カレー・コンソメスープ
	フットサル部	お好み焼き
	文芸部	駄菓子・部誌販売
	パン学研究会	かぼちゃパフェ
	みたらし会	だんご
	落語研究会	味噌おでん

第41回斯花祭は11月17・18日の2日間、「楓」色褪せない伝統と心」をテーマに開催された。各クラブ・研究会・学生有志など43団体が参加し、多彩な催しが繰り広げられた。

斯花祭実行責任者・委員長の岸田康秀(国文学科2年)、学生会長の小林裕貴(国文学科2年)を中心とした実行委員や各サークル・団体が、どのようにすればより多くの人に見ていただけるか、あるいは効果的かなどそれぞれの場所で行き違えながら連日

くまで入念に準備を進めてきた。さらに、國學院の良き伝統に新しい発想を加えての斯花祭に、一人でも多くの方に来ていただけるよう学外にも広く呼び掛けた。当日訪れた人々は、それぞれの団体の特徴を生かした展示をはじめ、早い時期からこの日のために練習してきた成果を存分に発揮しての公演、出店数も多くメニューも豊富で美味しいと定評のある模擬店など、年に一度のイベントを楽しんだ。実行委員会本部企画としては、恒例の斯花グランプリ

(受賞団体は一覧参照)のほか、斯花祭メインイベントのお笑いライブが、18日午前11時より四十周年記念館で行われた。今年は「たいがー：リー」と「ジャンファンカ」の二組。それぞれの個性豊かなユーモア溢れるトークに束の間の楽しい時間を過ごした観客に対し、カメラや携帯電話での撮影をどうぞと声がかかると、ステージの前にはすぐに人だかりができ、このライブの記念にと次々に写真が撮られた。とても親近感のあるライブとなった。



初の試みで西3号館渡り廊下に展示(華道部)



日々の努力が感じられた公演(ダンス部)



和服・洋服など作品の数々
(家政学科有志)



観客を惹きつけたマジックショー
(マジック研究会)



視力はどれくらいかな？
(ピーナッツハウス)



毎年期待されているうどん屋さん
今年はおそばも登場で大盛況
(ハンドボール部)



工夫を凝らした作品の展示や七宝焼き体験
(美術工芸部)



焼きカレーうどんに辛子マヨネーズ味も好評
(考古学研究会)



手遊びからはじめて子供たちを楽しませた公演(人形劇部)



古代史・近代史・中世史・近世史・東洋史研究会による展示

～あこがれの教職体験～ 一回り成長した教育実習

と実際の教育現場との違いに大きな戸惑いを感じていた。事前の教材研究や指導案作成、先生方や児童・園児とのコミュニケーションのとり方、そして生徒指導やカウンセリングなどすべてについて悩

本書への入学の動機のひとつとして教育職員免許状取得を希望している学生たちは、入学当初より授業や研修の中でその意義を学び、その総仕上げであり最も大切な学習として教育実習をとらえ、準備も周到に実習初日を迎えた。実習生たちはまず、大学の授業で学んだこと

平成19年度の教育実習は、中学校教科が6月4日から29日までの4週間、養護教諭が6月4日から22日までの3週間、そして幼稚園および小学校が10月1日から26日までの4週間にわたって行われた。実習にご協力いただいた幼稚園、小・中学校と参加学生等の概況については下表参照。

み、力不足を感じながら次の授業・保育に挑むという繰り返しであった。そうしながらも現場ならではの経験を通してそれぞれの個性を理解し、適切な指導をすることの重要性と責任の重さも学んでいた。それぞれの実習校では、校長先生をはじめ指導教諭の先生方が、自分たちと同じ教職の道を目指す後輩を育成しようとして、多忙な職務にもかかわらず温かく迎えてくださり、熱心なご指導をいただいた。生徒・児童たちも年齢が近く若い実習生たちを屈託のない笑顔で「先生」として教室に迎えてくれた。こうした先生方、園児・生徒との触れ合いの中で、教師という職業の楽しさ、喜びを十分に味わうことができ、それと同時に自分という人間を見つめ直す機会を得ることもできた。こうしてひとまわり成長し、

平成19年度 教育実習概況

	中学校 (80校)				幼稚園 (61園)	小学校 (18園)	合計(名) (159校園)
	国語	家庭	社会	養護			
学校依頼	8	5	6	29	41	10	99
個人依頼	14	1	5	20	23	8	71
科目等履修生				4	1		5
合計(名)	22	6	11	53	65	18	175

意識を高めて大学に戻ってきた学生たちは、教職に就くという夢の実現に向けて日々勉学に励んでいる。

1年生を対象とした就職支援行われる

全1年生を対象に、学生課・学生委員会が企画する就職支援を開始した。

9月15日、実務教育出版社の就職模擬試験を実施した。国語、英語、社会・文化、自然科学、時事・社会常識からなる共通問題と時事・社会常識の希望業種別選択問題が出題された。基礎学力や時事・社会常識は、就職希望者のみならず編入学・進学希望者にとつても必要不可欠な要素であり、今回の試験結果は現段階での個々の到達度を認識し、自分の目標達成のために努力する契機となった。

9月21日、ジョブカフェとちぎ(とちぎ就職支援センター)の協力により職業意識啓発セミナーを実施した。講師の有限会社エフア代表取締役菊地理恵氏は、基本的な事柄の中でも特に挨拶が大切であり、社会人として働くことはどういふことをエピソードを交えて話された。学生は基本を知っていることと実行できることの違いを理解し、今

後の日常生活の中でも気を付けていきたいと感想を述べ、就職に対する意欲を沸かせた。

就職のための一般教養試験対策講座は10月24日から12月5日まで開講され、100名の学生が受講した。講座は、それぞれの担当講師が作成した頻出問題による模擬試験と解説解答を組み合わせた内容で行われ、受講者は就職試験における一般教養問題の重要性を認識するとともに、就職に対する意識を更に高めた。詳細は別掲一覽参照。

就職のための一般教養試験対策講座

回次	開催月日	対象分野	担当者
第1回	10月24日	理科	北村奉正教授
第2回	10月31日	歴史	小林青樹准教授
第3回	11月14日	政治・時事	佐藤圭一教授
第4回	11月21日	経済	秋山誠一教授
第5回	11月28日	英語	山本博子教授
第6回	12月5日	数学	正木孝昌教授

時間 16:10～17:40(第3回のみ18:30まで) 場所 633教室

教師になりたい！強い思いと新たな決意

家政学科 教員採用試験支援講座

家政学科では、進路支援の充実を目指して教員採用試験支援講座が年間を通して放課後に実施されている。これは都道府県で行われている教員採用試験の合格率を上げるために続けられている企画で、

「一般教養」「教職教養」「家庭科」「養護」「小論文」「面接」等試験問題の傾向と対策を講義し、模擬試験を実施している（左図参照）。

先輩合格者の体験伝授では家政学科卒業生で教員採用試験に合格された廣川久美子さん

家政学科 教員採用試験支援講座

回	月 日	内 容
1	5/23	オリエンテーション
2	5/30	一般教養
3	6/6	小論文
4	6/20	先輩合格者の体験伝授Ⅰ（家庭科）
5	6/27	教職教養
6	9/26	専門科目Ⅰ（養護・家庭科）
7	10/3	先輩合格者の体験伝授Ⅱ（養護）
8	12/12	専門科目Ⅱ（養護・家庭科）
9	1/9	面接
10	1/16	模擬試験「一般教養」「教職教養」、「養護」または「家庭科」
11	1/23	返却・解説「一般教養」「教職教養」
12	1/30	返却・解説「養護」または「家庭科」

ん（平成13年度卒・埼玉県立宮代養護学校教諭）、佐藤萌さん（平成16年度卒・片品村立片品小学校養護教諭）を講師とし、50余名の学生はメモを取りながら真剣に聞き入っていた。

学生たちは、講話後も先輩が使用したノートやカード、問題集を手に、質問をしなから、勉強方法や受験に対する心構え等を再確認し「養護教諭になりたい」という強い思いと新たな決意を膨らませていた。

夢をあきらめず、自分を信じて 廣川久美子

家庭科教員を目指してから



35期 廣川 久美子さん

早9年、母校の先生方に「教員採用試験合格」を伝えられたこと、後輩の前で自分自身の体験を話せたことを大変嬉しく思います。正直、合格するまでの道のりは平坦なものではありませんでした。こんな辛い思いをするならやめてしまおうと思ったときも何度もありました。勤務しながらの教員採用試験受験は、仕事との両立が難しく、思うように試験勉強・授業準備の両方

が進まずにイライラしてしまつたときもあります。

今、思い返すと色々なことがありましたが、夢をあきらめずに自分を信じて教員採用試験を受け続けて本当に良かったと改めて思います。

現在は、肢体不自由特別支援学校に勤務しています。今の自分には足りないところが多々ありますが、謙虚な気持ちで日々一歩ずつ、子どもたちと共に学んでいける教師になれるよう、自己研鑽に努めたいと思います。

自分のため、こどもたちのために 佐藤 萌

試験勉強は自分との戦いです。辛いときも沢山あります。



38期 佐藤 萌さん

た。しかし、この勉強はいずれ養護教諭として学校現場に立つときに自分自身のためになると信じ、さらに子どもたちの健康と笑顔にもつながることだと思い、頑張ることができました。試験勉強を始めた当時は自分に自信がなく、不合格という結果にあらわれたものと思います。自信をつけるために何度も問題集を解きました。3度目の教員採用試験に挑んだときは「すべてやった。絶対に合格する！」

試験後には「やりきった！」という充実感がありました。やれることを精一杯やった結果が、自信となって合格に結びついたのだと思います。現在は小学校に勤務し、きらきらと輝く子どもたちと向き合える幸せを日々感じています。「もえ先生、元気になったよ。ありがと」と小さな全身をつかって感謝される喜びは他に味わえません。子どもたちのために何ができるか、をまず考え、夢実現に向けて悔いのない短大生活を送ってください。



自説を力説する波戸岡旭教授

紅葉前線の南下を阻止するような暖かな10月31日、12時50分より735番教室において、本学科の講演会が開催された。

講師は國學院大學文学部中国文学科の波戸岡旭教授で、演題は「宮廷詩人菅原道真の生涯と文学」であった。波戸岡先生は、昭和20年に広島県生口島でお生まれになり、國學院大學そして大学院へと進まれた。平成3年には「上代漢詩文と中国文学」の研究テーマで学位を取得され、平成17年には菅原道真研究の総決算とも言えるべき六百頁を越す大著『宮廷詩人菅原道真』菅

家文章」・「菅家後集」の世界」を上梓された。また和漢比較文学会代表理事・東アジア比較文化国際会議日本支部長などを歴任され、学会でも活躍中である。一方、先生は俳句の実作にも心血を注がれている。院友でもある能村登四郎氏に師事し、現在天頂俳句会的主宰を務められ、雑誌『天頂』を毎月出版されている。さらに先生は詩吟の大

国文学科講演会 10月31日

宮廷詩人 菅原道真の生涯と文学

國學院大學文学部教授 波戸岡 旭氏

家でもあり、終了後の懇親会では、お得意の喉を存分に披露された。

講演は先ず日本漢文の評価のことから始まった。先生が空海の『三教指帰』を研究テーマとして選んだ時、周りの反応は殊の外冷やかだったそうである。以前の日本漢文は、亜流とか和臭とか言われ、確かに冷遇されてきた。しかし、和漢比較文学会が昭和58年に発足し、研究が盛ん

に行われるようになって以来、中国・韓国などでも関心を持たれるようになった。ようやく正当な評価を受けるようになったのである。

日本で「漢詩」というと、すぐに李白や杜甫の詩を連想するが、菅原道真や頼山陽などの日本の漢詩文も忘れてはならない。中国で「漢詩」というと、単に「漢代の詩」の意味でしかないが、日本では

を占めるのです」との先生のご指摘は、日頃私が漢文の授業で話していることと寸分も違わない。

以上のようなことを前提に、「文道の祖、詩境の主」と絶賛される菅原道真（845～903）の生涯と文学について、先生の長年のご研究の一端をご披露いただいた。道真は没後、天神信仰など数多くの伝説を生んだが、今回は道

真自身についてのお話をいただいた。彼は、生涯菅原家を代表する宮廷詩人としての重圧に苦しみ、太宰府左遷後の悶絶に、わずか2年

で屈してしまふ。その彼が、左遷後の詩よりも、内宴詩や重陽宴詩の方が遙かに優れており、宮廷詩人としての面目躍如が窺える点を述べられた。

そして、文学研究の神髄とも言える作品の読みについても、先生の独自の見解を伺うことができた。こちふかばにほひおこせよ梅の花あるじなしとて春をわするな（『拾遺和歌集』巻16）の「にほひおこせよ」は、従来「梅のお

いを左遷先まで届けて欲しい」と解釈されているが、梅よ今年も美しく咲きなさい」と京都の梅を励まししているとの意に取るべきであると強調された。また「九月十日（『菅家後集』）の詩の結句「捧持して毎日余香を拝す」の「余香」は、残り香ではなくまだ衰えない薫香の意味であり、左遷後も忘れぬ道真の宮廷人としての功臣ぶりを込めたと結論づけられた。

最後に先生は、道真と白居易のことに言及された。道真がわが国の白居易と称されたことは言うまでもない。白居易が元慎という無二の親友を得たことにより豊かな人生を送れたのに対し、道真は親友を持たなかったため、沈鬱な生涯を送らねばならなかったと、友人がいかに大切であるかを力説され、講演を終わられた。

芭蕉にゆかりの深い室の八島（栃木市惣社町大神神社内）をご案内したおりの、先生の玉句を掲げ欄筆したい。

句碑守の
芭蕉葉そよりとせざり
文責 教授塚越義幸

「初教このはな会」開かる

学園教育センター レクチャーホールで

10月20日午後1時30分より、

國學院大學栃木学園教育センターにて、第11回「初教このはな会」の総会と講演、学生の表現活動が行われた。初教このはな会員の卒業生と教職員、在学生が参加した。

総会の後、本学准教授渡辺千歳先生による講演「特別支援教育に関して―保育者・教師が気をつけたいこと―」が行われた。

渡辺先生は、特別支援教育とは何かということから話を始められた。

特別支援教育は、従来の「特殊教育」のみならず、通常学級の発達障害のある子どもたちも含め、より多くの障害をもつ子どもたちのニーズに対応した教育であること、発達障害には、自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、精神遅滞、発達性言語障害、発達性協調運動障害等が

あることを述べられた。

また、文部科学省による全国での発生率の推計値は約6.3%であること、栃木県では2006年度事業で、対象となった5歳児など11440人のうち、5.9%に当たる674人に発達障害の疑いがあることがわかったということを紹介され、障害をもつ子どもが増加している現状を指摘された。

では、発達障害をもつ子ども



事例をあげて講演する渡辺千歳先生

もにどう対応していったらよいかということが課題になるが、渡辺先生は、幼稚園や小学校における具体的事例をあげながら、発達障害の特徴と対応について解説された。

発達障害は自閉症もADHDもすべて先天的な脳の機能障害が原因と考えられている。しかしその一方で、発達障害をもつ子どもの増加には、社会や家庭が要因として考えられるという。例えば家庭では、「親自身が目立ちたい」「子どもを十分に愛せない、可愛がり方を知らない」「経済的な困難」「乳幼児なのに、おとなと同じ分別、落ち着きを要求する」「社会的なルール、マナーを教えない」ということなどが発達障害をもつ子どもの増加につながっていると考えられるというのである。

特別支援教育は教育界にとって大きな課題となっている。教育に携わる者は、障害をもつ子どもを正しく理解し、適切に対応していくことが問われているだけに、参加された会員は、渡辺先生の講演から多くの示唆を得ることができたと考えている。

その後、学生による表現活動が行われた。今年度は、総会が開かれたのが2年生の教育実習期間であったということもあり、1年生による表現活動となった。発表された表現は次のようなものであった。

*

- 1年1組女子学生による創作「大きな栗の木の下で」
- 1年2組女子学生による創作「おおブレネリ」
- 1年3組女子学生による創作「グーチョキパーでなにつくろ」
- 1年4組女子学生による創作「手と手と手と」
- 1年男子学生による創作「ボディパデエンジョイブレイ」
- 秋季研修旅行の折、宿泊したホテルの広間で発表したことはあったのだが、仲間の前で、舞台もせいまいものだった。今回の舞台は比べられないほど広く、初教の先輩方に見ていただくということとで、緊張もし、戸惑うこともあったようだが、11月17・18日の春花祭に向けて、貴重な発表の機会となったといえる。

予告

平成19年度 国文学科公開講座
日本文学における〈生〉と〈死〉

1月26日	記紀・万葉にみえる生と死	教授	小林 吉一
2月2日	平安文学にみえる生と死	教授 文学博士	林田 孝和
2月16日	中世文学にみえる生と死	教授	千明 守
2月23日	近世文学にみえる生と死	教授	田中 憲二
3月1日	宮沢賢治にみえる生と死	准教授	大山 尚
3月8日	堀辰雄文学にみえる生と死	教授	岡本 岱

(2時00分～3時30分) 学園教育センター

秋季 教育センター
短歌教室 開催中

講師 千勝三喜男
9月25日
10月16・30日
11月13・27日
12月11日
1月22日
2月5・19日
3月4日

(1時00分～3時30分)

図書館だより

復刻文芸雑誌 19

特別コレクションガイド ③①

「復刻版 近代文芸雑誌稀

少十誌」(紅野敏郎編 雄松堂出版 平成19)に収められている復刻雑誌紹介の二回目。

『異端』 創刊大正3・9

『終刊大正4・1 異端社(雄松堂複製 平成19)2冊』

編集兼発行人であり、主宰者でもあった尾山篤二郎創刊の文芸雑誌

創刊号表紙は広川松五郎の「祈りの図」、裏表紙にカミエール・クロードの肖像を配す。口絵はクロード作の三枚。

二冊目でもあり、終刊号ともなった二巻一号の表紙・口絵とも一号と同じ。

室生犀星、田辺孝次、萩原朔太郎、加能作次郎、福永挽歌、福士幸次郎、窪田空穂、太田水穂、富田砕花、新妻莞等の顔触れが揃つ。『異端』と称しながら 異端 の特色を出しきれないまま二冊で終るが、朔太郎、犀星、空穂、水穂研究に必見の雑誌とされ

る。

『智慧』 創刊大正7・4 阿蘭陀書房(雄松堂複製 平成19 1冊)

高村光太郎、水野葉舟の二人の同人誌として出発。ここに落合太郎が加わるが編集実務を担当。実質的にはやはり光太郎、葉舟の二人である。

光太郎は葉舟宛書簡、花についで「ロダン」の言葉」と題してのロダン訳を載せ、葉舟は小品、詩、「言葉の研究(一)」、を発表。落合太郎は雑誌を書いていく。

わずかに32ページのこの同人誌は、幾度も予告されながら結局二冊目が刊行されることはなかった。

『茜ぞめ』 創刊大正10・11 茜ぞめ社(雄松堂複製 平成19 1冊)

全30ページの短歌を中心に据えた雑誌。編集兼発行人は桜井雄一。冒頭宣言の中に、私達は、短

歌的短歌は作りませぬ」とあり、若者達のこの雑誌への思いが伝わる。

窪田空穂が別格として「子牛」と題する長歌を寄せる。

都筑省吾、山崎剛平が中心の二人であり、二十歳前後の両人が全力をあげた雑誌。

『ダムダム』 創刊大正13・10(実際は11月) 南天堂書房・ダムダム会(雄松堂複製 平成19 1冊)

編集人は林政雄、発行人小野十三郎。

文芸雑誌『ダムダム』は、萩原恭次郎、橋爪健、林政雄、飯田徳太郎、神戸雄一、溝口桐、中野秀人、野村吉哉、岡本潤、小野十三郎、高橋新吉、壺井繁治の十二名を同人として、詩、戯曲、小説、論文、評伝と多彩な内容を持つ。

十二名の同人は、アナキスト、ダダリスト、構成派、表現派など既成の觀念に反逆する多様な人々であり、存分に思いを表現していると言われる。前衛芸術誌 とも評される。

手に取ってご覧になりたい方はカウンターにとぞ。

図書館長 太田映子

服部正美元商学科長ご逝去

「サヨナラ」だけが人生だ

教授 飯田 晶夫

去る10月1日、服部正美先生(注1)が心筋梗塞で急逝されました。訃報に接し、文字通り言葉なしでした。今もなお口惜しく悲しいです。

いつも新刊書を読みながらもう一冊を小脇に抱えて歩いていたお姿が目に見えます。

「サヨナラ」ダケガジンセイダ

(注1)商学科教授1990・4〜2001・3、この間96・99年に学科長

「サヨナラ」ダケガジンセイダ

(注2)服部先生の最終講義「ティネンを迎えて」より



告別式では10分ほど思い出を語ってききましたが、本誌には300字という制約があります。本文10行に注記100行の文章を書いてみたい」という博覧強記の先生を語るには注の注として1000行が必要で、そこで、弔辞で結びとした詩を引用します。(注2)コノサツキヲウケテクレドウゾナミナミツガセオクレハナニアラシノタトエモアルゾ

事 報

行事・集会

- 10月1日〜26日 初等教育学科2年生教育実習
 6日 学園創立47周年記念式典
 9日 学園創立記念日
 17〜18日 1年生秋季研修旅行
 31日 国文学科講演会「宮廷詩人 菅原道真の生涯と文学」國學院大学教授波戸岡旭氏
 11月5日 一般推薦・指定校推薦入試
 10日 秘書技能検定試験
 14日 国文学科卒業研究ガイダンス
 17〜18日 第41回斯花祭
 21・22日 国文・家政・初教・日本史学科2年生教育免許状申請ガイダンス
 24日〜 前期追・再試験
 28日 日本学生支援機構奨学金返還ガイダンス
 12月1日 自己推薦・社会人入試
 1日 第30回定期演奏会
 3〜7日 国文・日本史学科卒業研究提出

■本学および関係者出版紹介■

- 山崎順子元教授著「イギリス王政復古期のシェイクスピアと女性演劇人」 学術出版会刊
 ○科目等履修生神山奉子著「のりうつぎ」 下野出版社刊

参考館資料解説

40

三春張子人形

— 愉快な郷土人形 —



三春張子人形 右高さ17cm 三番叟(左)と男武者(右)

雛人形をはじめ、土人形や張子人形などを郷土人形とよぶ。雛祭の行事が庶民層に広まると、高価な衣装雛の代わりに安価な雛人形が作られるようになった。この雛人形から派生したのが、郷土人形である。

岡・相良・下小菅人形、福島三春人形、三河地方の棚屋・大浜・旭平七人形、京都の伏見人形、福岡の博多人形、鹿児島・垂水・東郷・宮之城人形などがある。

江戸では雛市が立ち、地方の城下町や村では庶民の手で作られた人形が戸板などに並べられて雛市で売られたのである。

郷土人形の作者達は、片手間の農民、庶民あるいは瓦職人であり、才のおもむくま、壊れやすい土人形や紙人形を精魂込めて作り上げた。

この郷土人形はブームをよび、幕末まで盛んに作られた。郷土人形の製作を庇護する藩も出て、郷土人形の発展と、名手の輩出に拍車がかかった。

大蔵永常は安政六年(一八五九)に「広益国産考」下巻を刊行し、農民の副業と

して、土人形作りを指導している。

しかし郷土人形は幕末ころ、鉱物性絵具使用の禁止令や、一般大衆の人形に対する趣向の変化とともに、ほとんど消滅してしまった。

このような郷土人形のひとつに三春張子人形がある。三春は梅・桃・桜が一時に咲き出す里の意である。三春張子人形は江戸時代、秋田五万五千石の旧三春藩領、高柴村、現福島県郡山市西田町高柴で作られはじめた。

大小のダルマや各種のお面、恵比寿大黒や干支の動物などの縁起物をはじめ、雛人形や歌舞伎・浮世絵に題材をとる人形まで多くの種類がある。仙台の堤人形にも似ており、その影響を受けたといわれている。

この張子人形は、紙(和紙)という素材の可塑性を生かし、非常に躍動的で、繊細な人形に作られている。人形が製作されはじめた時期などは、正確にはわからないが、江戸時代の文化・文政一八〇四(三〇)の頃に最盛期を迎えている。その当時は、優れた人形



三春張子人形 右高さ12.5cm 風俗二態

が作られたということである。しかし、明治になって、人形に使用される染料について制限が加えられたりしたことにより衰退し、ダルマなどがわずかに製作されるまでになつてしまった。

これを復興させたのが、大阪のコレクターである本出保治郎に力づけられた高柴の人々で、故小沢太郎であった。現在では、各種の鮮やかな人形が製作されている。高柴デコ屋敷では、紙はり、型抜きと胡粉塗り、絵付けの製作工程を見ることができ、また絵付けの体験教室も開かれている。

学芸員 戸田正勝

もとつこころ

没後十三年、国民教育の師父の名声高い師範教育の泰斗森信三先生の語録「一語千鈞」が致知出版社から出ています。

只管あいさつ

「あいさつ」一つで家庭が変わり、学校が変わり、職場が変わり、運命が変わる。

「朝のアイサツ」は人より先に「これを一生つづけることは、人として最低の義務とすべし。何よりも「人間としての軌道」に乗っていただきたい。その第一は、まい朝、親にあいさつのできる人間になること。もしこれが出来ないとしたら、まだほんとうに「人間としての軌道」に乗っているとは言えない。

「軌道」の第二は、親に呼ばれたら、必ず「ハイ」と返事ができること。

「軌道」の第三は、席を立つたらイスを出しっぱなしにしないで、必ずキッチンと中へ入れておくこと。

いま一つ、それはハキモノを脱いだら、必ず揃えるということ。これができたら、人間としてしまりのある人、ということです。(好)

徹底したキャリアプランで就職を支援

多彩なプログラムで豊かな人材を育成

国文学科

3コース

日本語・日本文学コース
創作文芸コース
民俗文芸コース

まず、行動すること 井野口愛美(群馬県出身)

就職活動は、1年生の1月から開始しました。最初は手探りで不安ばかりでしたが、学生課の先生に親身に相談に乗っていただいて少しずつ自信が持てるようになりました。私は、説明会の告知がされていない企業にも電話をかけてたりして積極的に活動しました。第一志望の企業で内定を得られてとても嬉しいです。

(群馬ダイハツ販売株式会社内定)

家政学科

セメスター制 専門学問系選択

生活科学専攻
健康科学専攻

一番大事なこと 横山可奈子(福島県出身)

就職活動は今思うと「めげない・落ち込まない・諦めない」この3つが一番大事なことであったと思います。就職試験の結果が不合格でも、面接がうまくいかなかったとしても、この3つを心に刻めば必ず光は見えてきます。「前へ進む」これが内定への第一歩です。

(医療法人石川病院内定)

初等教育学科

2コース

幼稚園主専攻
小学校主専攻

周囲に支えられて 古川清美(栃木県出身)

私が夢を実現させることができたのは、周囲の人たちのおかげです。熱心に指導してくださった先生方、卒業してからも相談に乗ってくださった先輩、共に夢に向



ゝかって歩んだ友人、たくさんの人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。本学の初等教育学科で学べたことを誇りに思います。

(吹上幼稚園内定)

日本史学科

2コース

日本史コース
歴史遺産コース

積極的に情報収集を 男澤愛美(栃木県出身)

内定への一歩は、こまめに情報を集め、進んで説明会に参加し、面接を受けることです。その中で自分に合った職業に巡り会うことができれば、幸せなことだと思います。また、とにかく諦めないことも重要だと思います。

(株式会社ヨドバシカメラ内定)

商学科

3コース

国際経済コース
経営会計コース
ビジネス情報コース

入社への期待 根岸かほり(栃木県出身)

自分の好きなものに結びつく仕事を本職にしたい！その希望を叶えるため多くの説明会に参加、エントリーをしました。授業を通して得た知識と教養、アルバイトで学んだ経験を活かし内定通知を手にすることができました。来春、自分で選んだ職場で頑張ります。

(株式会社ニ科尔内定)

平成20年度 入学試験日程および選考方法

試験種別	A方式入試	B方式入試	C方式入試
願書受付期間	平成20年1月11日(金)～2月6日(水)	平成20年2月12日(火)～3月5日(水)	平成20年3月7日(金)～3月19日(水)
試験日	2月9日(土)	3月6日(木)	3月21日(金)
合格発表日	2月14日(木)	3月8日(土)	3月22日(土)
選考方法	1科目(100点)入試・調査書・面接 ◆国文学科 国語総合(漢文を除く) ◆家政学科・初等教育学科・商学科 国語総合(古文・漢文を除く) ◆日本史学科 日本史B、世界史Bのうち1科目選択	2科目(200点)入試・調査書・面接 ◆国文学科 国語総合(漢文を除く)、英語I・IIの2科目 ◆家政学科・初等教育学科・商学科 国語総合(古文・漢文を除く)、英語I・IIの2科目 ◆日本史学科 必修科目 国語総合(古文・漢文を除く) 選択科目 英語I・II、日本史B、世界史Bのうち1科目選択	調査書 課題作文(600字程度・60分) 面接